



家族が最後に伝えたかったこと…

在宅医療に看護師として関わり26年になる。

その間、たくさんの方の人生の最期に立ち会ってきたが、人が亡くなる前にテレビドラマのように 最後「これまでありがとう」等の言葉を残しながら ころっと 息を引き取るような場面は ほとんどない。

このような場面を求めるのであれば、自宅で 24時間交代で家族が 目を離さずに見守り、いや見張りをしていなければならない。

私は人生の最期の場面に立ち会い、亡くなっていく人は何かを訴えているような感じがする。先日 亡くなった Fさん 94歳は 孫娘との 4人暮らし。年老いて だんだんと身体の機能が 低下して 口から食べ物が入りづらくなり、誤嚥性肺炎となった。自宅では抗生剤等の補液を行い、少し改善して年末年始は 家族みんなと写真を撮った。日々 衰弱していたが表情は穏やかである。Fさんが好きな食べ物を 娘がペースト状にしたり、ゼリー状にした物を口から食べることもできていたが、その量は日々減っていった。

娘は「一口でも父の好きな物を食べさせてあげたい。お酒も好きなので吞ませてあげたい」等と。更に誤嚥するリスクは高まるが、吸引を頻回にしながら大好きなウナギもペースト状にして食べ、お酒は口腔ケア用のスポンジに浸して口に含ませたりしてあげた。

夜中まで家族で Fさんを囲んで 一緒にいられることを 幸せに感じ、安定していたため それぞれの部屋に戻り朝まで入眠した。朝、娘が Fさんに声をかけると 息が止まっていた。娘は 父が 一人淋しく亡くなってしまったのではないかと 息が止まる最期まで そばにいてあげられなかったことを 悔やんだ。

私が 孫から連絡を受け、自宅へ駆けつけると 穏やかな顔で、身体もまだ温かいままだった。まるで 安らかに眠っているかのようであった。私は泣いている娘に「Fさんは、あなたが泣きわめく姿を見たくないから そっとあなた達が起きる前に静かに息を引き取ったと思うよ」と、声をかけた。孫たちも「寝る前におじいちゃんはお母さんの顔をジッと見て何か言いたそうだったよ。おじいちゃんはお母さんが取り乱すことが一番嫌いだったもんね」と 声をかける。

亡くなる瞬間に立ち会えなかったことは残念ではあるけど、その人と亡くなるまでの間にどれだけ、どう関わってきたかが大切であって、大事なことなのだと思う。

超高齢化社会を迎え、独居の高齢者は どんどん増えていく。私もこれまで63年間 生きてきたが 自分の 最期の瞬間なんて考えられないし、誰も そばにいないかもしれない。他の人からしたら 淋しいと思われるかもしれないが、精いっぱい 自分の生き方に 後悔なく過ごしてきた過程が 一番大切なのだと思う。

俺が死んで
孫たちの前で取り乱す
んじゃないぞ





節分とは…豆をまいて福を寄せ、鬼を退治する

小さい頃より親しみのある行事だが そもその意味については ちょっと自信がない
そんな方も多いのではないのでしょうか？

「鬼を追い払って新年を迎える立春の前日の行事」で 江戸時代までは 大晦日的な
一年の締めくくりの日とし邪気を払い無病息災を願う行事であった。



鬼は～外！



福は内！

ケアホーム希望 でも

コロナやインフルエンザ等の **疫病退散** を 願い

そして**福**が来るよう**豆まき**をしました！



豆まきのまき方とは… (炒った大豆をまくのはなぜか?)

豆をまくようになったのは室町時代とされ「豆=魔目(鬼の目)を滅ぼす」に由来
されている説がある。

節分に使う豆は、前日に炒って枡に入れ神棚にあげておくのが正式。炒った大豆を
使用するの、後から 芽が出てしまったら「凶事が起こる」と昔の人は恐れた。
また「鬼の目を射る=炒る」という 語呂合わせからきているという説もある。



調布市にある「**深大寺**」では、豆まきの際に「**鬼は外**」とは言わない。

これは元三大師さまが鬼の姿となって魔を降したという「**鬼大師**」の信仰があり、鬼といえども時に私たちを
導く大いなる力となる とされている。



鬼役
張り切って
頑張ります！
おお～



この俺が
鬼になってコロナを
退散させてやる～
じゃないか！



私は みんなが
怖がるような鬼の面
作りますよ～



鬼なんか
怖くないよ～だ
^^^…



鬼は
怖いから
見ない

